

# うない通信 for 先端型

Vol.4

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室 ニュースレター 2022年3月発行

## ダイバーシティ推進セミナー

令和4年3月14日(月)、令和3年度ダイバーシティ推進セミナー「全ての人の Well-being を実現するためのD & I: アンコンシャス・バイアスを排し心理的安全性を確保する」を、SDGs推進室との共催でオンラインにより開催しました。講師にSDGパートナーズ有限会社 代表取締役CEOの田瀬和夫氏、同取締役の吉村美紀氏をお招きし、本学が推進するSDGsから、特に目標5「ジェンダー平等を実現しよう」について理解を深めるとともに、実現に向けて取り組みを進めていくために必要不可欠と考えられる「無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)」と「心理的安全性」について学ぶことを目的に実施しました。

セミナー冒頭では田瀬氏より、「ウェルビーイング(よく生きる)」は、SDGsを包括的に理解する上で非常に重要な概念であり、参加者一人ひとりのウェルビーイングがどのような要素で構成されているのか考えてみるのが提案されました。また、ウェルビーイングを支える概念として「多様性と包摂(ダイバーシティ&インクルージョン)」について説明があり、ラグビー日本代表を例に挙げ、個を尊重しあえる組織は強く、互いに信頼しあえる環境がそれぞれの個人の自信つまり「心理的安全性」につながることを、そして「心理的安全性」の基盤にはアンコンシャス・バイアスを取り除くことが重要であることをお話いただきました。組織として今後はDEI(Diversity, Equity and Inclusion)の実現を目指すことが重要であるとの説明に、全ての人がより良く生きるための組織作りの重要性について改めて気づかされ、理解を深めることができました。

また吉村氏からは、ご自身の経験なども踏まえて、いま全ての人がジェンダー平等と女性のエンパワーメントの重要性についてより深く理解すべき時期を迎えており、まさにGoal 5「ジェンダー平等」はSDGsの全ての項目の前提条件であるとの説明がありました。また、DEI実現を阻む要素の一つであるアンコンシャス・バイアスについて解説いただき、アンコンシャス・バイアスがもたらす影響とその具体的な対応策について学びました。個人それぞれがもつ「思い込み」には常に疑問を持ち、継続的に検証する姿勢や意識が必要であること、組織としては既存ルールの是正や、合理的配慮に取り組むことがインクルージョンには必要不可欠であるとのお話から、女性だけでなくすべての人が働きやすい環境を作ることがDEIにつながることを理解できました。質疑応答では、組織をまとめるリーダーとして、「自分らしくいたい」個人と関わる際の心持ちについて等の質問が寄せられ、本テーマへの関心の高さが伺えました。

全ての人が自分らしく生きられる組織となるよう、琉球大学ではこれからも引き続きダイバーシティ推進に関するセミナー等を開催します。



## 工学部初の女性教授が誕生しました!



玉城 絵美 教授  
(工学部工学科)

2006年琉球大学工学部卒業、筑波大学大学院システム情報工学研究修士課程、東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。

本学では女性研究者の上位職登用の一環として、全学教員ポスト戦略的再配分(重点改革推進枠)による「女性教授限定公募」を実施しています。令和2年度に工学部で行われた女性教授限定公募によって、令和3年4月、工学部初の女性教授として玉城絵美教授が着任されました。

玉城先生のご専門は工学(ヒューマンインタラクション)で、平成23年にコンピューターからヒトの手の動作を伝達する装置“Possessed Hand(ポゼスト・ハンド)”を発表。同年、アメリカのTIME誌が選ぶ「The 50 Best Inventions」に選出されました。平成24年にはH2L株式会社を起業され、代表取締役社長を務めていらっしゃいます。この他にも、県内外の多くの会議・委員会にもご参画されており、先生の活動は学術界、産業界のみならず、様々な分野から非常に高い関心を集めています。

教員、研究者、起業家、そして上位職者として、若手女性研究者や女子学生のロールモデルやメンターとしての玉城先生の益々のご活躍に期待します。

## リーダー育成海外研修

### “Allyships for Women's Leadership: Leveraging Feminism for Institutional Change” 「～組織を変える「てこ」としての女性活躍とパートナーシップ～」

令和3年7月30日(金)、本学に所属する女性教員・女性研究者を対象に、リーダー育成海外研修を実施しました。当初の計画では現地を訪問し研修が行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでのセミナー形式での開催となりました。

セミナーの講師には Wisconsin 大学オークレア校教授のデイヴィット・ジョーンズ氏、そして Wisconsin 州オークレア市評議員(副代表)のキャサリン・エマヌエル氏をお招きし、「Supporting Women's Leadership: 4 Essential Steps for Male Allies」と題し講演いただきました。両氏のご経験と実践方法をご紹介いただき、さらにセミナー後半では参加者が数名のグループに分かれてディスカッションも行われ、参加者全体で共有しました。



#### 参加者の声 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構 助教 石川千恵

「女性活躍」と言われても私は何をすればよいのか、と戸惑ってしまいます。と言いますのも、日常業務の中では自分が「女性」であると意識することはあまりないのです。そんな中、「女性活躍」と言われると、ああ私はもっと頑張らないといけないのかなと身構えてしまいます。しかし、今回の講演会はそのような気持ちを和らげる内容でした。パートナーシップとは違うアライシップ、平等(equality)ではなく公平(equity)。私にとっては新しい概念でした。女性を支援することで組織をより良く改革をしていくこと。これらのお話は、「女性」として組織に属していることの意味を見つめ直し、組織の構成員としてジェンダー平等について改めて考える機会になりました。また、今回の講演会ではグループミーティングが行われ、喜納室長とお話する機会に恵まれました。発言に消極的な私から丁寧に意見を引き出してくださり、議論を促し、私の認識を深めてくださいました。終了後、個人のがむしゃらな努力は前提としていないことに気づき、気持ちが楽になりました。今後もアライシップやジェンダー平等、推進室の取り組みなど、いろいろと学んでいきたいと思います。

## 国際学会派遣+1 Visit

女性研究者の研究力と管理運営能力の向上を推進することを目的とした「国際学会派遣+1 Visit」を実施しました。

本制度は、国外で開催される国際学会等で女性研究者自らが研究成果発表を行う場合において、国際共同研究を推進するための新たな研究ネットワークの構築を目的とした訪問や、管理運営に関して先進的な取り組みを行う教育研究機関等を調査訪問することを「+1 Visit」として旅程に加えていただくもので、係る費用の全額または一部を補助するものです。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応として、オンラインで行われる国際学会への参加及びオンラインによる「+1 Visit」訪問も支援対象としました。

今年度は1名を採択しました。

#### 【採択者】

喜納 育江 (国際地域創造学部 教授)

## オーガナイザー養成支援

学内だけでなく学会や外部委員会等においてもリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的として、女性教員自らがオーガナイザーとしてセミナーやシンポジウム等の企画・運営に携わる際に、係る費用の全額又は一部を補助し、事業の開催を支援する「オーガナイザー養成支援」を実施しました。

今年度は下記5名を採択し、支援しました。

### 【採択者】

金城 紀子 (大学院医学研究科 助教)

「沖縄移行期医療研究会～小児リウマチ性疾患のより良い移行を考える～」

大湾 知子 (医学部 准教授)

公開講座「排尿・排便の管理～排泄の悩みを解決しよう！～」

玉城 絵美 (工学部 教授)

「キャリアデザイン、就職、働き方バリアとその乗り越え方—企業、大学、社会人、学生から見たキャリア形成ディスカッション—」

陳 碧霞 (農学部 准教授)

“International Workshop Development of Community Development and Sustainable Tourism Programs in Natural Heritage Sites”

山元 淑乃 (グローバル教育支援機構 准教授)

日本語教育シンポジウム「沖縄から始まる持続可能な共生社会—誰ひとり取り残さない”時代”を見据えて—」



## 琉球大学岸本遺贈基金寄附金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」

琉球大学岸本遺贈基金寄附金における人材育成事業の一環として、本学の博士後期課程及び専門職学位課程に所属する女子大学院生を対象に、「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」を実施しました。

本事業は、本学の女子大学院生を海外の研究機関等に派遣することにより、受け入れ先研究者の指導の下、国際的な研究機関におけるリサーチに携わり、異文化の学習環境に触れ、多様な学問文化を経験する機会を提供し、グローバルに活躍する次世代の女性研究者を育成することを目的としています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、海外への渡航が困難な状況が続きましたが、コロナ禍における特別対応としてオンラインによる研究活動についても条件付きで支援対象とすることとし、募集を行いました。渡航に際しては、文部科学省の方針や外務省の情報をもとに留意事項等を採択者と共有し万全を期すよう配慮し、派遣を実現させることができました。

今年度は1名の女子大学院生に支援を行いました。

### 【採択者】

比嘉 麻莉奈 (人文社会科学研究科 博士後期課程 比較地域文化学専攻)



## うない奨励賞 表彰式

琉球大学特定基金「うない女性研究者・リーダー育成基金」による事業の一環として、将来を担う優秀な女性リーダーの育成を目的に、本学的女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を表彰する「うない奨励賞」を、今年度新たに設け募集を行いました。

多数の応募があった中から記念すべき第一回目となる受賞者に、西嶋 櫻さん（最優秀賞）、大田 光さん（優秀賞）が選ばれ、令和4年2月15日（火）に表彰式を行いました。

表彰式では、審査委員長を務めた井上章二理事・副学長（教育・学生支援担当）より、表彰状と副賞として金一封が授与され、受賞者の栄誉を称えました。表彰式はコロナ禍に配慮し規模を縮小しての開催となりましたが、その後、審査員を務めたジェンダー協働推進室長の喜納育江先生も交えた懇談では、受賞者から研究や活動の面白さや難しさ、今後の展望や将来の豊富などのお話がありました。

井上理事からは、本賞の受賞を励みとして今後も一層の研鑽を重ね、将来女性リーダーとして活躍されること、そして研究者を目指す女子学生のロールモデルとなることを期待しています、との激励のお言葉がありました。

### 【受賞者】

#### ○最優秀賞

西嶋 櫻（教育学部 4年）

「蛍光トラッキング法を用いたオキナワシリケンイモリ（*Cynops ensicauda popei*）の行動圏特性の調査」

#### ○優秀賞

大田 光（人文社会科学部 2年）

「沖縄戦における男子学徒隊の戦後の記録編纂の過程と各学校の継承に関する研究」  
「平和学習での講師および戦跡ガイド、一中学徒隊資料展示室での解説員の活動」



西嶋 櫻さん



大田 光さん

琉球大学特定基金「うない女性研究者・リーダー育成基金」では、「うない奨励賞」をはじめ、女性研究者のリーダーシップ育成支援や若手女性研究者の研究力強化支援、女子学生の育成・支援等を行っています。詳細につきましては、琉球大学基金HP (<http://www.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp/>) をご覧ください。

## ジェンダー協働推進室からのお知らせ

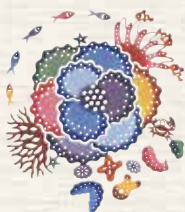
### \*ロールモデル集『Polaris』 Vol.2 が発行されました！

本学における上位職のロールモデルとなる女性役員・研究者の方々を紹介する冊子『Polaris』 Vol.2 では、学長と若手女性研究者との鼎談、学部初の女性教授となられた先生方の対談、女性役員・教授からのメッセージを掲載しています。

ジェンダー協働推進室のHPにも掲載しておりますので、以下のURLよりぜひご覧ください。

<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/other/>

その他、支援事業やセミナー等の詳細につきましては、随時ジェンダー協働推進室HPで発信しております。



国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室

Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail: [gender@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp) URL: <http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/>